

# JA全厚連情報



# 目 次

- 個人情報に係る対応等について説明・協議  
厚生連常勤役員・参事会議を開催 1
- 専門・認定看護師の活用事例等について共有  
厚生連専門・認定看護師部門応援プログラム Vol.1 を開催 3
- J A 愛知厚生連病院の現地視察を実施  
農民の健康を創る会 4

## ・通信員だより

- 遠軽厚生連病院で職場体験学習を行いました（遠軽厚生連病院） 6
- ユビーAI 問診導入しました！（能代厚生医療センター） 7
- 令和5年春開始の新型コロナワクチン接種への協力（平鹿総合病院） 8
- 茨城県厚生連看護職 優良看護職員知事賞を受賞（J A 茨城県厚生連） 9
- 特産物で医療従事者に感謝（水戸協同病院） 10
- 鹿行地区 J A 青年部による農産物即売会が開催（J A 茨城県厚生連） 11
- 茨城県厚生連看護職8名が受賞（J A 茨城県厚生連） 12
- 看護の日無料イベント開催しました（相模原協同病院） 13
- 緊急自動車運転講習を開催しました（伊勢原協同病院） 14
- アドボカシー担当看護師の役割（伊勢原協同病院） 15
- 看護専門学校2校で看護立志式（厚生連看護専門学校・するが看護専門学校） 17
- 産婦人科セミナーを開催（J A 静岡厚生連静岡厚生連病院） 18
- 13年ぶりの大規模訓練「木曾三川連合総合水防演習」に参加しました（海南病院） 19
- 映画「光る校庭」の特別上映会&トークイベントを開催しました（足助病院） 20
- 医療人材の育成に向けて、愛知県立杏和（きょうわ）高等学校にて授業を開始しました（稲沢厚生連病院） 21
- J A 愛知厚生連スペシャルムービー「その背中」篇のテレビCMが開始しました（J A 愛知厚生連） 22
- 臨床研修説明会を開催（J A 三重厚生連） 23
- 第60回東海四県農村医学会を開催（J A 三重厚生連） 24
- J A 香川県から寄付金をいただきました（J A 香川厚生連） 25



©よい食プロジェクト

全国厚生農業協同組合連合会  
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル  
TEL(03)3212-8000 FAX(03)3212-8008  
E-Mail: jigyounei@ja-zenkouren.or.jp  
(事業運営支援グループ)  
<http://www.ja-zenkouren.or.jp>  
編集責任者 中村 純誠



## 個人情報に係る対応等について説明・協議

### 厚生連常勤役員・参事会議を開催

5月25日に東京・京橋 TKP ガーデンシティ PREMIUM 京橋「ホール 22B」において、厚生連常勤役員・参事会議を開催した。

会議に先立ち、前原和平日（白河厚生総合病院名誉院長・白河総合診療アカデミーセンター長）が「白河総合診療アカデミーの開設経緯とこれまでの歩み」をテーマに講演を行った。

講演では、開設前の県南二次医療圏の状況や東日本大震災の影響についてご説明いただくとともに、「総合診療・ER」寄付講座設置による白河総合診療アカデミーの取組結果や「救急から看取りまで」を目標とした今後の展望について、お話しいただいた。



講演を行う前原名誉院長

会議では、協議事項として、（1）個人情報に係る監督指針の改正、（2）役員の兼職・兼業に係る対応、（3）令和5年度厚生連病院財政調整事業の実施、（4）令和4年度決算を踏まえた健全性指標の動向、一等に関し協議を行った。厚生連からは、（1）個人情報に係る監督指針の改正に関し、その対応について意見が出された。

報告事項として、（1）厚生連の令和4年度経営収支状、（2）地方創生臨時交付金における電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金の活用、（3）令和4年度特別交付税措置の活用状況、（4）厚生事業に係る要請等の取組み、（5）DPCデータ及び厚生連病院帳票・厚生連介護帳票を活用したベンチマークへの協力、（6）厚生連医療スタッフ応援プログラム、（7）令和4年度全厚連仮決算、（8）令和5年度事業企画委員会の運営および委員の選出一等の報告を行った。

電力・ガス・食料品等価格高騰支援について、自民党議員連盟「農民の健康を創る会」の幹事の島村大・参議院議員から、厚生連グループに対するメッセージをいただいた。

まずは、コロナ禍において厚生連病院がコロナ患者に献身的に対応したことについて感謝が述べられた。

また、今般の医療機関や介護施設等のエネルギー高、物価高による疲弊の現状について、地方創生臨時交付金が都道府県を介するものであることを踏まえ、国からも都道府県に対してしっかり説明はしていること。

厚生連としての知事や市町村の首長に対する要請の方法としては、各議会对応も大切である旨のお話があった。

最後に、国レベルにおける対応はしっかりやりますと力強いメッセージをいただいた。



挨拶を行う島村大・参議院議員と会場の様子

報告事項の(4)について、厚生連からは、厚生事業に係る要請等の取組みとして、病院における院内保育所の運営についての支援要請が必要との要望があった。

なお、広報事例として、JA北海道厚生連が新型コロナウイルス感染症への対応を取りまとめた「JA北海道厚生連 新型コロナとの闘い 1,000日の記録」の紹介を行った。



## 専門・認定看護師の活用事例等について共有 厚生連専門・認定看護師部門応援プログラム Vol.1 を開催

本会は5月31日、厚生連医療スタッフ応援プログラムとして「厚生連専門・認定看護師部門応援プログラム Vol.1」をWEBで開催し、14 厚生連 29 施設 72 名が参加した。

「厚生連医療スタッフ応援プログラム」は、厚生連病院の医療スタッフが抱えるテーマについて、部門別の講演やディスカッションによる情報共有、解決の一助となるような場を提供することを目的として実施している。

今回開催した厚生連専門・認定看護師部門応援プログラムでは、社会医療法人財団池友会福岡和白病院 看護部長 三島 裕子 氏から「認定看護師の活用実績」、同病院 集中ケア認定看護師 谷口 誠太 氏から「福岡和白病院の認定看護師等の活動」についてご講演いただいた。

三島氏は、福岡和白病院における認定看護師への支援内容や病院内外の活動内容、カマチグループの独自の取組である高度実践看護部門について説明した。この高度実践看護部門については、カマチグループ全体の看護の質を向上することを目的に、組織的にJNAQN（ジェイナック・所属する診療看護師、専門看護師、認定看護師、特定行為研修修了者、感染制御実践看護師などのある特定の研修を修了した看護師）を育成する取組みであり、立ち上げから現在の取組み状況までをご講演いただいた。

谷口氏は、福岡和白病院の認定看護師等の活動として、グループ内病院との研修や院内でのチーム活動、院内ラウンドについて説明し、「認定看護師等の活動に積極的に取り組むことで、3つのWin（経営の視点、管理者の視点、認定看護師の視点）を得ることができ、病院全体のメリットになる」と述べた。

また、講演とは別にグループディスカッションを行い、他厚生連の同規模病院との意見交換が行われた。

参加者からは、「看護管理者のマネジメント力と認定看護師の組織横断的な活動に必要な支援について学ぶことができた」「認定看護師資格取得後、さらに毎年施設内での活動評価が確立されていることは、認定看護師の役割発揮につながる取組みで、参考になった」「認定看護師からの意見や看護管理者として今直面している課題を共有し、自施設に合った方法で解決策を考えるきっかけになった」「他施設の取り組みを拝聴できる機会を設けていただき、ありがたい。大変参考になった」等の感想が寄せられた。

## J A 愛知厚生連病院の現地視察を実施

### 農民の健康を創る会

自由民主党の議員連盟「農民の健康を創る会」は、令和5年5月31日、J A 厚生連の保健・医療事業の実態などを把握し、今後の政策提言等へ反映させることを目的に、愛知県江南市のJ A 愛知厚生連 江南厚生病院（河野彰夫院長）の視察を行うとともに、意見交換を行った。

視察には、衆議院議員 宮下一郎幹事長、衆議院議員 小島敏文事務局次長のほか、農林水産省、厚生労働省、J A 全中及びJ A 全厚連の役職員が参加した。

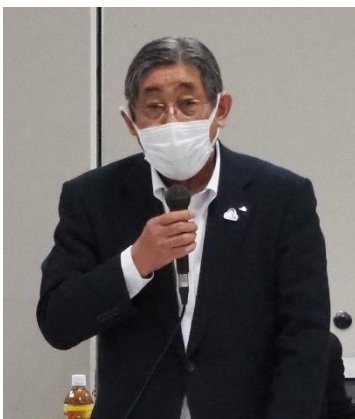
また、J A 愛知厚生連からは、長谷川浩敏会長をはじめ、宇野修二理事長及び河野院長が参加し、担当役職員が同行した。



農民の健康を創る会・宮下幹事長

#### ○現地視察

宮下幹事長の挨拶で江南厚生病院での意見交換がスタート。続いて、視察先のJ A 愛知厚生連長谷川会長の挨拶並びに宇野理事長及び江南厚生病院の河野院長が概況説明を行った。



JA 愛知厚生連長谷川会長の挨拶



意見交換の様子

概況説明では、河野院長から、地域における高度急性期医療を担う病院として医療を提供していること、また、単身者死亡に伴う未収金等の病院が抱えている課題について説明があった。

### ○意見交換会

引き続き行われた意見交換では、JA全厚連から、①円安・原油価格の高騰等による物価高騰への対応、②有償病床割合の見直し、③医師の偏在是正及び医師の働き方改革への対応、④サイバーセキュリティ対策への支援—等について要望が行われた。

また、要望事項②有償病床割合の見直しに関し、河野院長からはコロナ患者への対応状況について説明があった。

### ○意見交換のまとめ（宮下幹事長）

本日ご協力いただいたJA愛知厚生連及び江南厚生病院からの概況説明も的確で、課題のありかもよくわかった。さらに厚労省、農水省の皆様にもご協力をいただいて充実した意見交換会になったと思う。

4つの要望項目をいただき、それぞれ何とかしなければならないという思いを新たにした。役所の皆さんともコミュニケーションをとりながら、問題解決のために、しっかり頑張りたい。

### ○病院の施設を視察する様子



発熱外来開設時の状況



救急外来



コロナ患者受入で使用した病室



屋上のヘリポート

通信員だより

## 遠軽厚生病院で職場体験学習を行いました

(JA北海道厚生連・遠軽厚生病院)

遠軽厚生病院（稲葉聡病院長）では、6月22日に遠軽中学校『Human Time II 職場体験学習』の授業の一環で、将来、医療現場で働くことを夢見る中学生3人が職場体験学習を行いました。

この3年間程、新型コロナウイルス感染防止対策により、このような体験学習を実施する事ができておりませんでした。普段目にする事ができない手術室や医療器具等を触れる体験や院長の診療の様子や看護師の注射薬材の詰め方、入院患者様の他科受診の付き添い体験や医療技術職の現場見学、入院食の喫食体験などを行い、久しぶりにこのような体験を実施することができた本院の職員もはりきっておりました。

今日の体験を機会に、将来医療職を目指すきっかけとなれば嬉しいです。今後も地域の皆様に愛される病院を目指してまいります。



職場体験学習の様子

(佐々木萌通信員)



## ユビーAI 問診導入しました！

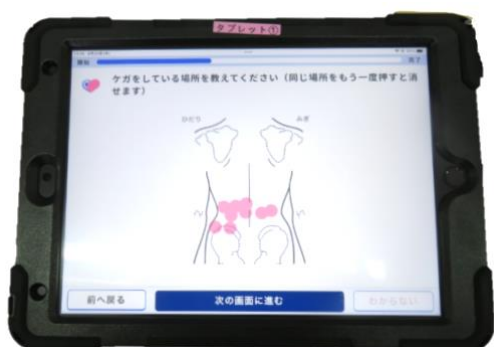
(JA秋田厚生連・能代厚生医療センター)

能代厚生医療センター（太田原康成病院長）では、1月19日より消化器内科・整形外科の外来でAI問診システム「ユビー」の導入を開始しました。

AI問診とは、専用のタブレット端末によるAI（人工知能）を利用した事前問診のことです。この問診にお答えいただいた患者様の症状などにあわせて、AIが最適な質問項目を判断してお伺いしていきます。そのため、質問項目が固定化された従来の問診よりもさらに詳しい問診を行うことができます。他にも医師を目の前にすると話しづらかったこともタブレットだと伝えやすい、言い忘れや伝え漏れが減ることで医師の診察内容をより充実させることができる、などのメリットがあります。質問項目は、患者様の基本情報・来院目的や症状・これまでの病歴や生活習慣などで、その内容によって異なりますが、およそ30～60項目程度です。

AI問診の結果は電子カルテと紐づけられており、左上の写真のようなイラストによる問診回答についてもそのまま電子カルテに貼付けることができます。これにより、医師や看護師、医師事務作業補助者の電子カルテ記入業務の負担軽減効果もあります。

当院では新患の方や久しぶりに該当科を受診する患者の皆様に、新患受付にてAI問診を実施していただいております。現在は消化器内科・整形外科の2科のみですが、これから他の科へ導入拡大を計画しています。



ユビータブレット



AI問診の様子



AI問診ロゴ

(斎藤美翔通信員)

## 令和5年春開始の新型コロナワクチン接種への協力

(JA秋田厚生連・平鹿総合病院)

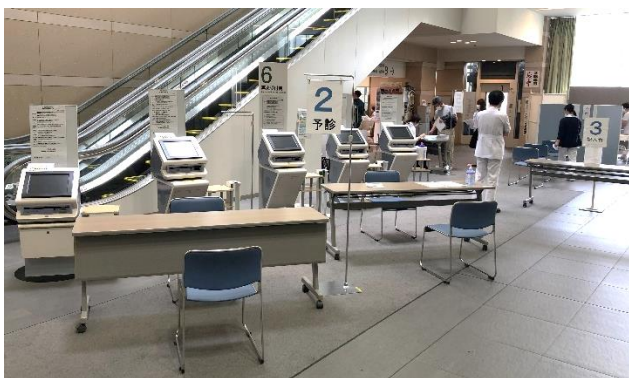
令和5年春期間の新型コロナワクチン接種が始まりました。横手市では、今回から集団接種ではなく、協力医療機関による個別接種で実施することとなり、市内36の医療機関が協力して行います。

平鹿総合病院（堀口聡病院長）では、かかりつけ患者の追加接種を受け持つこととなりました。12歳未満は平日、小児科で対応しますが、12歳以上は3千人以上の申し込みが想定されるため、院内感染のリスクを考慮し、休診日の土曜に玄関ホールで実施します。

予約受付はインターネットで対応し、電話や窓口対応等の省力化を目指します。インターネットになじみのない方には、外来診察後に保健福祉活動室に寄っていただき、患者さんと一緒に予約入力をしています。

運用面では、当院の玄関ホールは広く、吹き抜けとなっており、十分な換気を行い、密集を回避するため予約時間毎に順次会場へ誘導することで一度に多くの方に接種を受けて頂けます。当院は、令和3年4月には、地域の医療従事者を対象に半日に約200人の接種を行った実績があり、今回は半日で252人を上限に接種を実施します。

9月以降に秋期間接種も控えていることから、出来るだけ早く、多くの希望者にワクチンを接種していただき、今後も地域に信頼される病院として、地域社住民の健康や安心な暮らしの維持に貢献できるよう努めて参ります。



個別接種受付



個別接種会場

(齋藤美翔通信員)

## 茨城県厚生連看護職 優良看護職員知事賞を受賞

(JA茨城県厚生連)

5月14日、茨城県及び、公益社団法人茨城県看護協会が主催する第59回いばらき看護の祭典が、ザ・ヒロサワ・シティ会館にて開催されました。同祭典では、県内で看護業務に献身的に従事し、功績を上げた方々に対する茨城県優良看護職員知事表彰授与式が行われました。

JA茨城県厚生連（酒井義法・代表理事理事長）からは、土浦協同病院（河内敏行病院長）の宍戸正子（ししどまさこ）看護副部長が受賞し、「今回の受賞を励みに生涯に渡り日々精進し、看護界の発展に寄与できるよう尽力していきたい」と話しました。

本会としても大変名誉なことであり、今後の活躍が期待されます。また、看護職を通じて、地域医療への貢献にも努めてほしいと思います。



受賞した宍戸正子看護副部長

(酒井一彦通信員)

## 特産物で医療従事者に感謝

(JA茨城県厚生連・水戸協同病院)

JA茨城県厚生連(酒井義法・代表理事理事長)が運営する総合病院水戸協同病院(渡辺重行病院長)では、6月9日にJA鹿行地区青年部から特産物であるメロンやピーマンなどが贈られました。

今回は、これまでの新型コロナウイルスへの対応と、5類移行後も感染対策に努めながら、一般診療業務にあたる医療従事者への感謝と激励が込められた寄贈となりました。

青年部を代表し、柴田康行JA茨城旭村青年部長は、「お陰様で、今年も鹿行地区では特産のメロンやピーマンなどが豊作である。是非、医療従事者の方々に食べてもらい、精を付けて頑張ってもらいたい」と話しました。

これに対し、渡辺重行病院長は、「このような心遣いは本当にありがたい。お気持ちに込められるように、これからも診療体制の管理を徹底し、最大限の医療サービスを提供できるように努めていく」と感謝の意を伝えました。

この後、寄贈されたメロンやピーマンなどは職員食堂で提供され、美味しくいただきました。



特産物を贈る柴田康行JA茨城旭村青年部長(右から3番目)と  
受け取る渡辺重行水戸協同病院長(左から3番目)

(酒井一彦通信員)

## 鹿行地区JA青年部による農産物即売会が開催

(JA茨城県厚生連)

6月9日、総合病院水戸協同病院（渡辺重行病院長）の玄関前で、鹿行地区JA青年部による「第41回鹿行地区農業PR市農産物即売会」が行われました。同部はJAなめがたしおさい、JA茨城旭村の青年部員で構成され、鹿行地区の農産物を通じて地域社会への貢献と地域住民との相互理解を図り、食と農の価値を高める活動を行っています。

あいにく雨に見舞われた中での開催となりましたが、即売会は早々に注目を集め、病院に訪れた方だけでなく、地元商店街の方も集まり、メロン、ピーマン、トマト、きゅうりなど、用意された農産物はあっという間に完売となり、大盛況のうちに終了となりました。

新型コロナウイルスも5類感染症へ移行となり、今後もこのようなイベントが積極的に開催されることによって、病院に来院された方や地域の方々が元気になってほしいと思います。



大盛況となった即売会の様子

(酒井一彦通信員)

## 茨城県厚生連看護職 8名が受賞

(JA茨城県厚生連)

6月16日、公益社団法人 茨城県看護協会が主催する令和5年度茨城県看護協会通常総会が、ザ・ヒロサワ・シティ会館にて開催されました。同総会では、県内で看護業務に献身的に従事して功績を上げた方、また、日本及び同協会の発展向上のために貢献した方へ茨城県看護協会会長賞表彰授与式が行われ、JA茨城県厚生連(酒井義法・代表理事理事長)から8名の看護職員が表彰を受けました。

式典終了後、受賞した土浦協同病院附属看護専門学校の須加野幸恵教務部長は、「このような名誉ある賞をいただき、大変光栄であります。これからも茨城県厚生連を通じて、茨城県の看護職の発展に貢献していきたいと思っております」と感想を述べました。



受賞した茨城県厚生連看護職員

(酒井一彦通信員)

## 看護の日無料イベント開催しました

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

5月11日に相模原協同病院（井關治和病院長）は、看護の日にちなんで地域住民向けの看護の日無料イベントを開催しました。5月12日は、近代看護を築き上げたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日で「国際看護師の日」です。イベントでは皮膚・排泄ケア認定看護師 笹川 晴美 副師長による特別講演「いずれ来る尿失禁～おしっこを知ろう～」が行われました。参加された方々は講演中メモをとったり、ご自身の経験を話されたり、ご質問されるなど関心の高さが伺えました。尿失禁に対する正しい知識を知ってもらえたのではないのでしょうか。



講演の様子



参加者からの質問会

(生沼貴彦通信員)

## 緊急自動車運転講習を開催しました

(JA神奈川県厚生連・伊勢原協同病院)

5月16日に伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）は、伊勢原警察署の協力のもと、緊急自動車運転講習を実施いたしました。

講師に伊勢原警察署の職員をお招きし、同院の救急車を運転するスタッフを対象に講演を実施しました。交通ルールなど基本的な内容の振り返りをはじめ、緊急車両を運転する際に意識しなければならないポイントや、事故が発生しやすい場面などを解説いただきました。

参加者からは、「警察の方の視点から、緊急車両を運転する際の注意事項を分かりやすく解説いただき、大変参考になりました」、「これからも無事故で業務に励みます」などの声が聞かれました。



講習会の様子

(生沼貴彦通信員)



## アドボカシー担当看護師の役割

(JA神奈川県厚生連・伊勢原協同病院)  
患者総合サポートセンター 医療相談室主任 本間 久枝

アドボカシー (advocacy) とは、「権利を擁護する」「代弁する」を意味し、医療分野では「当然守られるべき患者とその家族の人権・権利・利益を擁護するために闘うという考え方、またはそのための取り組み」という意味で使われます。

アドボカシー担当看護師の主な役割は、患者さんやご家族の皆さんが安心、安全な医療を受けていただくために意見・要望・不満などを傾聴し、医療者側と双方の意見を聞きながら支援を行い、現場や院内全体にフィードバックをすることで医療サービスの向上に繋げていくことです。

実際の活動内容は、面談や電話での対応、院内に設置している投書箱に投函された意見等についての対応の他に、各部署から相談を受けることもあります。お褒めのお言葉を頂くこともありますが、職員の言動に関する苦情や意見をいただくことも多いです。日頃から職員一人一人が接遇を意識した対応を心掛けていくことが大切であることを、活動を通して改めて感じています。特に初期対応が悪かった場合は、解決へ導くことが難渋する場合があります。職員全体で接遇を意識した取り組みの継続が重要であり、研修も行っています。

対応した事例は、アドボカシー担当看護師だけでなく、医療安全対策室や事務部、医療技術部など多職種による話し合いを毎週実施し、情報共有することで振り返りや対策を一緒に考えています。また、各部署で行っている話し合いに参加をすることもあります。現場の声を聞くことで、分析を行い問題解決に繋げていく体制を作っています。



多職種によるカンファレンスの様子

伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）では2004年からアドボカシー担当看護師を専任として配置しており、私は今年度から活動を行っています。私が大切にしている事は、患者さんやご家族の心に寄り添い、少しずつ信頼関係を作っていくことで問題解決に繋げていくことです。当初は自分が緊張してしまい話を聞くことしかできていないことを反省する毎日でした。相手の話をよく聴くことはとても重要であり、



アドボカシー担当看護師として活動する本間主任

怒りで興奮していた方でも最後に「聞いてくれてありがとう」「話して良かったです」などの言葉をいただいたときには、私も関わって良かったなと思える瞬間の一つです。

アドボカシー担当看護師は、主任や副師長などの管理職が2～3年毎に交代して活動しています。現場に戻った看護師はアドボカシー担当看護師としての経験を生かし、トラブル等が生じたときには現場での初期対応の大切さを伝えるなど啓発活動にも力を入れています。

患者さんやご家族の声を聴くことで、問題を解決へ導いたり、改善することは、患者の満足度を高めるだけでなく、病院の質を高めるために必要な取り組みです。これからも患者さんやご家族の思いを受け止め、寄り添った支援を行っていききたいと思います。

**多職種で連携し患者さんの支援を行っています**  
**【アドボカシー担当看護師】**

- アドボカシー担当看護師が、専任で患者さんからのご相談やご意見を承っております。アドボカシーとは、「権利を擁護する」「代弁する」という意味で、担当者は患者さんの立場に立った対応を心がけております。

<たとえばこんな時に・・・>

- 病気に対する漠然とした不安
- 前向きに治療に臨みたいが、気持ちの整理がつかない
- 家族が病気になり、気持ちの整理がつかない
- 担当の医師や看護師に自分の意思をうまく伝えられない
- 専門的なことだが、誰に相談したらよいかわからない
- 病院に対する提言（苦情）、ひとこと言いたい など

参考：伊勢原協同病院HP 患者総合サポートセンター ([http://www.iseharahp.com/content/support\\_center.html](http://www.iseharahp.com/content/support_center.html))

（生沼貴彦通信員）

## 看護専門学校2校で看護立志式

(JA静岡厚生連・厚生連看護専門学校・するが看護専門学校)

JA静岡厚生連の運営する看護専門学校2校が、それぞれの会場で5月下旬に看護立志式を挙行了た。

来賓や保護者、教職員が見守る中、2年生両校合わせて65名は、ナイチンゲール像にともされた「看護の灯」を、手にしたろうそくに受け継ぎ、看護の精神をうたったナイチンゲール誓詞を唱和しました。その後、一人ひとりが学校生活の中で見つけた自分の強みや自分の目標とする看護師像を発表し、決意表明をした。

これから病院や施設での本格的な臨地実習が始まる。



看護立志式の様子

(望月俊宏通信員)

## 産婦人科セミナーを開催

(JA静岡厚生連・JA静岡厚生連静岡厚生病院)

JA静岡厚生連静岡厚生病院（水野伸一病院長）では5月20日に、院内講義室と同時にウェブ配信を行い、産婦人科セミナーを開催しました。

地域住民とウェブからの閲覧者約20名が参加しました。

「こころを元気にする3つの秘訣」をテーマに、産婦人科医師が働く女性、更年期の女性などすべての女性を元気にするために生活習慣のこと、そして漢方を取り入れた養生を紹介しました。

参加者は熱心にメモを取っていました。



産婦人科セミナーの様子

(望月俊宏通信員)

## 13年ぶりの大規模訓練 「木曾三川連合総合水防演習」に参加しました

(JA愛知厚生連・海南病院)

海南病院（奥村明彦病院長）では、国土交通省が主催する「木曾三川連合総合水防演習」に参加しました。この演習は海部地区総合防災訓練と合同開催され、水防工法訓練や地震防災訓練、展示ブースなどにさまざまな機関が参加しました。

海南病院はトリアージ・医療救護活動・被災者搬送とドクターカーの展示を担当し、救命救急センター長の谷内医師や看護師、事務職員が参加しました。



海南病院から参加した職員



救急隊が木曾川の堤防で土砂に埋まった人形を救出し、谷内医師らが救護する様子

(井桁千聡通信員)

## 映画「光る校庭」の 特別上映会&トークイベントを開催しました

(JA愛知厚生連・足助病院)

足助病院（小林真哉病院長）では、足助交流館飯盛座にて映画「光る校庭」の特別上映会とトークイベントを開き、地元住民など約100名が参加しました。この映画は豊田市出身の映画監督比嘉一志さんが2022年8月に制作し、撮影の約3割が足助病院で行われ職員も参加しました。この企画は、「交通手段の限られた中山間地の足助地区の高齢者らにも観てほしい」という思いから上映会を足助病院が企画、豊田市商業観光課の協力のもと開催しました。

### <映画「光る校庭」>

豊田市を舞台に「人って死ぬとどうなるの？」をテーマに2人の少年とその家族の小さな前進を描かれ、俳優の安達祐実さん・光石研さんらが出演しています。



上映後のホールは、たくさんの拍手に包まれました。本映画は、昨年12月の「横濱インディペンデント・フィルム・フェスティバル」で長編部門最優秀賞、今年5月の中之島映画祭でグランプリを受賞しています

(井桁千聡通信員)

## 医療人材の育成に向けて、 愛知県立杏和（きょうわ）高等学校にて授業を開始しました

（JA愛知厚生連・稲沢厚生病院）

稲沢厚生病院（伊藤浩一病院長）と杏和高校は学校教育の活性化と地域に根ざした医療人材の育成を目指し、地域連携協定を締結しています。今年度より福祉科専門科目の選択科目として、稲沢厚生病院の看護師と杏和高校教員による授業（年間20回/計40時間）が開講し、看護専門学校を目指す生徒が受講しています。福祉や医療に関心のある生徒たちが病院で働く看護師から直接指導を受けることで、未来の医療人材の育成につながることが期待されています。



牧田看護部長による初回授業の様子



体のしくみの講義と看護師の基本である血圧測定などの体験実習の様子  
がん性疼痛看護認定看護師の伊藤さんが現場でのストレス解消法など生徒たちの素朴な疑問に丁寧に応えました

（井桁千聡通信員）

## JA愛知厚生連スペシャルムービー 「その背中」篇のテレビCMが開始しました

(JA愛知厚生連)

JA愛知厚生連(宇野修二・代表理事理事長)では、6月16日よりJA愛知厚生連スペシャルムービー「その背中」篇のCM放映を開始しました。CM放映はテレビ愛知にて行っております。

スペシャルムービー「その背中」篇のフルバージョン(116秒)およびCM用の15秒・30秒バージョンは、YouTube「JA愛知厚生連 公式チャンネル」で公開しています。6月9日からは民放公式テレビ配信サービス「TVer(ティーバー)」でも広告を開始しています。

<YouTube JA愛知厚生連公式チャンネル>

[https://www.youtube.com/@JA\\_aikosei](https://www.youtube.com/@JA_aikosei)



### JA愛知厚生連スペシャルムービー「その背中」篇について

2023年3月31日よりスペシャルムービーをYouTube公式チャンネルに公開しています。

この動画は、「毎日が積み重なる、その背中へのせて。」をテーマに医療現場の弛まぬ毎日の積み重ねと真摯に向き合う職員たちの背中を通してJA愛知厚生連の想いを表現しています。この動画にはJA愛知厚生連8つの全病院の職員が出演しています。動画制作には、国内外で活躍するクリエイティブディレクター・映像監督・作曲家などの方々にご協力いただきました。ムービー制作の詳細は下記ページをご覧ください。

スペシャルムービーの詳細はコチラ▼

<https://www.jaaikosei.or.jp/important/1166/>

(井桁千聡通信員)



## 臨床研修説明会を開催

(JA三重厚生連)

JA三重厚生連（庄山隆裕・代表理事理事長）では、5月27日津市のホテルグリーンパーク津において「三重県厚生連病院群臨床研修説明会」を開催し、医学生・本会の初期臨床研修医・指導医等71名が参加しました。

第1部は基幹型3病院の個別説明会とし、医学生は興味のある病院ブースにおいて研修医や指導医から説明を受けていました。

第2部は本会の臨床研修の概要や協力型病院（施設）の紹介等についてオリエンテーションを行い、懇親会を開催しました。

新型コロナウイルス感染症の5類移行により、臨床実習において海外留学が再開されたこと等により参加者数は例年より少なくなりましたが、参加した学生からは、病院の情報や研修内容、指導体制を知ることができたとの声が聞かれました。

県内の医師不足、地域偏在が長らく問題となっているなか、初期臨床研修医の確保は大きな課題であり、今後も基幹型病院はもとより、三重県厚生連としての対策を講じていきます。



三重県厚生連病院群臨床研修説明会開催の様子

(教来石信彦通信員)

## 第60回東海四県農村医学会を開催

(JA三重厚生連)

JA三重厚生連（庄山隆裕・代表理事理事長）では、6月11日、四日市市文化会館において第60回東海四県農村医学会を開催しました。

この学会は、東海四県の農村社会と、地域の医療・保健に関する問題を調査研究し、その解決を図ることを目的に、愛知・静岡・岐阜・三重の四県が持ち回りで開催しており、今回は三重県が開催県となり、三重北医療センターいなべ総合病院の相田直隆・院長が学会長を務めました。

本学会も新型コロナウイルスの影響を受け、令和元年の愛知県開催を最後に、1年延期のうえWEB開催となっていましたが、感染状況と5類移行を踏まえ、コロナ禍前より参加人数を縮小し、時間も短縮した形で開催しました。

今回の学会はテーマを「地域医療と高齢者医療」～持続可能な地域医療の実現に向けて～とし、三重県病院協会理事長の竹田寛先生による「地域医療を活性化するために」と題した特別講演、各県の地域医療に関する様々な取組みにかかる事例発表と総合討論が行われました。

この学会を通じ、厚生連病院がコロナ禍のなか地域において果たしてきた役割、また各病院の創意工夫をこらした取組みについて再確認できた学会となりました。

次回は令和6年6月に愛知県で開催されます。

(教来石信彦通信員)



学会開催の様子

## JA香川県から寄付金をいただきました

(JA香川厚生連)

JA香川厚生連（田宮隆・代表理事理事長）は、6月9日にJA香川県（村川進・代表理事理事長）からJA香川県SDGs地域応援定期貯金「きずな」を活用した第3回目となる寄付金をいただきました。

定期貯金「きずな」は、JA香川県が期間中に受け入れた貯金残高の0.01%相当額の金品等を負担して、地域のフードバンクや医療従事者等に支援を行う取り組みで、今回の第3回目は2月1日から3月31日まで実施されました。

JA香川厚生連は、JAグループとして今後も地域を支える医療提供と地域への社会貢献の両立に取り組み、持続可能な社会の実現に努めてまいります。



贈呈式の様子

(片岡麻美子通信員)